



寺田千代乃 (てらだちよの) 氏

神戸市生まれ。1968年、夫の寺田寿男氏と寺田運輸株式会社を設立。アートコーポレーション(アート引越センター)の創業者で、「引越サービス業」の生みの親と呼ばれる。2002~04年 関西経済同友会代表幹事、05年より現職(いずれも女性初)。

堀井 以前、本誌にご登場いただいたブロードウェイミュージカルのプロデューサー・出口最一さんも、劇評家が観てくれて、どういふ批評をしてくれるかが、ものすごく大事だとおっしゃっていました。劇評家の一言で、まったく無名のミュージカルが一夜明けると大評判になることもあるそうです。

藤岡 私もデビュー当時は無名の指揮者でしたが、ロンドンタイムスが絶賛してくれたことで一躍有名になり、仕事の依頼が急増しました。

寺田 ちゃんとした批評のできる人や媒体も必要ですね。

藤岡 批評家にしても、たまにしか新聞に取り上げてもらえないから、どうしても遠慮した書き方になる。褒めているのか、叩いているのかよくわからない感想文みたいになってしまいます。批評の場が増えれば批評家たちもしっかり勉強し、育つでしょう。東京でこうしたことはできていませんから、まずは関西からちゃんとした批評を発信すべきだと思います。

文化で「まち育て」

堀井 新しく観光庁が発足し、海外からの訪問客を2020年に2000万人に増やす目標を掲げています。これから海外からのお客さんが増えてくると、まちをもっと磨く魅力あるまちづくりが重要になってきます。その時のカギは文化です。ごちゃごちゃしているところが良いのだという人もいますが、それだけでは尊敬されるまちにはなりません。

藤岡 「ごちゃごちゃしている」というのは、いい意味でいろんな面を持っているということだと思いますね。それと、まちにも人にも、ラテン系のノリを感じます。

寺田 たしかに大阪は多様性に富んでいます。梅田から難波までの短い範囲だけでも、繁華街あり、北浜や中之島のように「はんなり」とした風情のいいところありと多彩です。また、東京から大阪へ転勤した人に、「大阪はいかがですか」って伺うと、大抵の方は「思ったよりきれいで安全なまちだ」っておっしゃいますよ。

藤岡 東京から来たとき、御堂筋の大きさと美しさに驚きました。ここで行われる「御堂筋kappo」って、素敵なアイデアですね。

堀井 御堂筋は44メートル幅で4キロもある大阪のシンボルです。

ともあれ大阪が汚くて怖いというイメージができたのには、長い歴史的経緯があるというのが私の意見です。また、大阪人自身が自虐的にそれを受け入れてしまったのも残念なことです。安心・安全なまちであることは大前提として、大阪にはこうした素晴らしいインフラや施設、文化がたくさんあるのですから、もっと自信を持ってほしい。その意味で寺田さんは、2003年から3年間、大阪ブランドコミッティを組織して大阪のブランディング活動を主導してこられました。また、2005年からは関西経済連合会の文化観光担当副会長として、関西全域のブランディング活動にも取り組まれていますね。

寺田 大阪についていえば、大川や水の都を象徴する川の回廊があるのに、これをブランドとして活かしきれていません。このことは、英国の大阪総領事だったポール・リンチ氏も指摘されています。かねてよりイギリスでは、政府主導によるクールブリタニア(かつていいイギリス)というイメージ戦略で、イギリスという国のブランディングに成果を上げていますからね。

堀井 関西経済連合会では、関西のブランド力を高めるためコンセプトづくりから活動計画まで取り組んでおられますが。

寺田 本年度の重点事業として「関西ブランド向上研究会」を発足し、関西がもつブランド資源を歴史・自然・暮らし・産業の4つのカテゴリーに分け、それらを知る(発掘する)、磨く、発信する活動を展開しています。関西には1500年を超える政治・経済・文化の中心地としての蓄積があります。私たちはこれらを有効に組み合わせ、関西の魅力を戦略的に展開することで、今まで以上の輝きを放つことができると考えています。

堀井 大阪といえば「お笑い、たこ焼き、タイガース」という東京発のステレオタイプなイメージが多いのですが。

寺田 だから私たちの活動は、「はなやか関西」というコンセプトを考えています。京都の王朝文化は「はなやかさ」そのものですし、奈良・吉野の桜や和歌山の梅など、関西には花の名所も多い。大阪は別名「浪花」といい、「はんなり」という言葉も「はなやか」が由来です。また、先進的なものづくりや、革新的なベンチャー企業も、関西の産業界をはなやかにしています。さらには霊場巡りのような民衆信仰も、はなやかな精神文化のあらわれといえるでしょう。私たちの活動には、そうした「はなやかさ」を、関西が一体となって世界に発信しようという意志があるんです。

藤岡 まさに関西州ですね。京都、神戸、奈良、和歌山、大津など、関西にはそれぞれ確固たる個性をもつまちが多く、私も大好きです。それと人の温かさ。関西フィルはその名の通り関西一円で公演をしますが、どこにいてもお客様の熱気がすごい。だからとてもやりがいがあります。

寺田 関西州が実現するかどうかはわかりませんが、ブランディング運動によって、関西がもっとも魅力的なエリアになることは確かです。

藤岡 そうして東京へ出て行った若い演奏家が、大阪や関西に戻ってくればもっといい。

堀井 藤岡さんのような優れた才能のある方が、大阪・関西を拠点に活動されていることは、とても嬉しいことですし、みんなで応援したいと思います。良い観客がふえることで文化のレベルが向上し、まちに活気が出てきます。それでこそ関西ブランドの魅力が光りを増すことになるでしょう。寺田さんも関連連の文化観光のリーダーとして、これからも力強くタクトを振っていただきますよう期待いたします。本日はありがとうございました。